

## 2022年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	<b>コロナ禍において看護基礎教育を修了した新人看護師の体験</b> —遠隔授業や遠隔実習での学びをふまえた入職6カ月目の語りより—
キーワード	① 看護基礎教育、② 遠隔授業・遠隔実習、③ 新人看護師

### 研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏名	キラ リエ 吉良 理絵
配付時の所属先・職位等 (令和4年4月1日現在)	日本赤十字看護大学 看護学部 助教
現在の所属先・職位等 (令和5年7月1日現在)	東京医療保健大学 東が丘看護学部 講師
プロフィール	2019年3月 日本赤十字看護大学 大学院看護学研究科修士課程修了 2019年4月 日本赤十字看護大学 看護学部 基礎看護学 助教 2023年4月 東京医療保健大学 東が丘看護学部 看護学科 基礎看護学 講師 長年臨床で仕事をしてから看護基礎教育に携わっております。主に看護技術や看護理論の授業と臨地実習を担当しております。患者-看護師関係など、対人関係に関する研究に関心があります。

### 1. 研究の概要

世界中に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は人々の生活を脅かし、未だに終息の兆しは見えず、医療体制を危機的な状況に追い込んだばかりではなく、看護学生への教育にも大きな影響を及ぼした。コロナ禍において、多くの看護教育の現場ではオンライン授業が実施された。なかでも、実習は臨地で行うことができなくなり、オンライン実習を行うこととなった。看護学生も教員も模索を続ける中で、学びの質を保つよう努力をした。多くの学生からは臨地実習に行けていないことで「実習の体験が少ないから不安である」との声が聞かれた。そこでオンラインでの形態で授業や実習を行い看護基礎教育を修了した新人看護師の体験を、半構成的インタビューを用いて明らかにすることとした。

### 2. 研究の動機、目的

コロナ感染症の蔓延は、看護学生の教育にも多大な影響を及ぼした。看護基礎教育では、授業形態が対面からオンラインへの変更を余儀なくされ、特に、東京都をはじめ関東圏の看護大学では、実習もオンラインでの実施となるケースが増加した。

臨地実習ならでの学びに近づけるよう、シミュレーション教育を活用した代替実習について報告もされるようになった。研究者が所属する看護大学も2020年度は、授業や実習は遠隔に切り替えて実施することを余儀なくされた。遠隔実習では、実習目標に到達するように動画やロールプレイなどを用いたシミュレーション教育の活用を行い、臨地での実習に近い臨場感を工夫したが困難なこともあった。しかしながら、実際にオンライン実習を担当した研究者はコロナ禍においても学ぼうとする学生の様子を感じ、オンライン実習ならでの学びもあったと手ごたえを感じた。

そこで、本研究は、コロナ禍における授業形態とコロナ禍以前の授業形態の両方の授業形態で教育を受け看護基礎教育を修了した新人看護師の体験を記述することを目的とした。

### 3. 研究の結果

#### (1) 研究参加者

都内の看護大学を卒業し、2020年4月～2021年3月の期間、授業や実習をコロナ禍以前の授業・実習の構成と比較して、半分以上の授業や実習をオンライン（遠隔）で履修した新人看護師4名に半構成的インタビューを実施した。

#### (2) 参加者の語りより

研究に参加された新人看護師は、コロナ禍で授業形態が変更になった時は、この先どうなるのだろう、と将来の不安を話した。しかし、それぞれの大学で検討された授業や実習プログラムで学んでいるうちに、「先生方が工夫をしてくれている」ということを話し、現状（遠隔授業や遠隔実習）への学びに前向きに向かうような変化がみられたようである。臨地の実習経験が少ない分、技術の経験が少ないという学生の不安に対しては、学内の演習で対応している大学がほとんどであった。

入職する前には不安が大きかったが、新人研修プログラムが手厚く行われ安心した、と皆、同様に話した。研修プログラムでは、OJTやoff-JTを使い分け、丁寧に研修が行われていたようである。コロナ禍での新人看護師を受け入れる臨床側の準備（オリエンテーションや研修の方法など）も整っていると思われた。なかでも看護技術への不安が皆大きかったと話していた。モデル人形を使用した研修後に、先輩看護師と一緒に実践するというステップを踏んで、患者に技術を実践していき、毎日の勤務で看護技術を実践するうちにできるようになっていたと話していた。

職場の先輩看護師から遠隔授業や遠隔実習について尋ねられることがあると新人看護師は話した。遠隔授業や遠隔実習を経験していない先輩看護師たちは、未知なる遠隔授業や遠隔実習に関心を持つ者もいるようである。今後、臨床現場に遠隔授業や遠隔実習を経験した看護師が増えることも考えられる。現在のDXの導入は、今後の看護基礎教育にどのように活用されていくのか興味は尽きない。

また一方で、看護基礎教育を遠隔授業・遠隔実習で修了したこととのつながりは不明であるが、新人看護師は日々の勤務の辛さも話していた。彼らは、コロナ禍以前の仕事を知らないが、現在のコロナ禍での仕事の継続に迷いを抱いているケースもあった。新人看護師の研修制度やフォローアップについて、またその後の継続教育の重要性が示唆された。

### 4. 研究者としてのこれからの展望

今後は、コロナ禍で看護基礎教育を修了した新人看護師の体験を積み重ねていきつつ、コロナ禍で看護基礎教育を修了した看護師の成長やキャリアなどを継続して研究していきたいと考えています。

また看護基礎教育に携わり、温かい看護を実践する看護師を目指し、日々学生さんと共に看護を探求していきたいと思っています。

### 5. 支援者（寄付企業等や社会一般）等へのメッセージ

この度は、私の研究にご支援をいただきまして大変ありがとうございました。このようなコロナ禍で無事に研究を遂行することができましたのも、偏に支援者の皆さまのおかげでございます。心より感謝申し上げます。

5類に移行してからも、covid-19がなくなるわけではなく、かわらず厳しい状況にあります。引き続き研究を重ね、社会のお役に立てるよう鋭意努力してまいります。

この度は、誠にありがとうございました。